

# 大谷遺跡表採繩文土器資料

## 例 言

1. 本書は、高原町教育委員会が定期的を実施した、宮崎県西諸県郡高原町大字広原字大谷に所在する大谷遺跡より採集した土器の報告である。
2. 大谷遺跡では、縄文時代後期を中心に、弥生・古墳・古代の遺物がそれぞれ確認されているが、本報告では、大谷遺跡出土遺物の中で多数を占める縄文土器について、その一部を報告している。  
なお、採集された土器については、横手浩二郎氏が『南九州縄文通信』第8号に寄稿した論文に記載されている所と同じ地点で採集されたものである。
3. 本報告に使用した図面及び写真については、大學が作成した。
4. 土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の、「新版 標準土色帳」に拠った。
4. 今回の土器の考察については、宮崎縄文土器研究会の方々に多大な御協力をいただいた。
5. 出土遺物については、全て高原町教育委員会で保管している。

## 本文目次

例言	4 2
本文目次	4 3
挿図目次	4 3
表目次	4 3
図版目次	4 4
第 I 章 はじめに	
第 1 節 遺跡の歴史的環境及び調査状況	4 5
第 II 章 表採資料の検討	
第 1 節 遺物の考察	4 8
第 III 章 ま と め	6 0

## 挿 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図及び広域周辺地形図	4 7
第 2 図 大谷遺跡表採土器実測図 (1)	5 2
第 3 図 大谷遺跡表採土器実測図 (2)	5 3
第 4 図 大谷遺跡表採土器実測図 (3)	5 4
第 5 図 大谷遺跡表採土器実測図 (4)	5 5
第 6 図 大谷遺跡表採土器実測図 (5)	5 6
第 7 図 大谷遺跡表採土器実測図 (6)	5 7
第 8 図 大谷遺跡表採土器実測図 (7)	5 8
第 9 図 大谷遺跡表採土器実測図 (8)	5 9

## 表 目 次

第 1 表 大谷遺跡表採土器観察表 (1)	6 1
第 2 表 大谷遺跡表採土器観察表 (2)	6 2
第 3 表 大谷遺跡表採土器観察表 (3)	6 3
第 4 表 大谷遺跡表採土器観察表 (4)	6 4
第 5 表 大谷遺跡表採土器観察表 (5)	6 5
第 6 表 大谷遺跡表採土器観察表 (6)	6 6
第 7 表 大谷遺跡表採土器観察表 (7)	6 7

## 図 版 目 次

図 版 1	遺跡遠景 . . . . .	7 1
	平成 9 年度試掘調査風景 (1)	
	平成 9 年度試掘調査風景 (2)	
図 版 2	表採遺物 (1) . . . . .	7 2
図 版 3	表採遺物 (2) . . . . .	7 3
図 版 4	表採遺物 (3) . . . . .	7 4
図 版 5	表採遺物 (4) . . . . .	7 5
図 版 6	表採遺物 (5) . . . . .	7 6
図 版 7	表採遺物 (6) . . . . .	7 7
図 版 8	表採遺物 (7) . . . . .	7 8

# 第1章 はじめに

## 第1節 遺跡の歴史的環境及び調査状況（第1図）

大谷遺跡は、宮崎県西諸県郡高原町大字広原字大谷に所在する遺跡である。宮崎県と鹿児島県との県境にある高千穂峰の東麓、町内の遺跡でも比較的高所の、標高約300～320mの台地の緩斜面に位置し、南北には字の由来を示している深い谷がある。日当たりも良く、水にも事欠かない所なので、人が住むには比較的条件の整った場所である。

大谷遺跡の周囲、特に北側には、同じような台地がいくつもあり、それぞれ水も豊富なので、その殆どに遺跡が集中している。谷を挟んだ北側の台地にある佐土遺跡では、西平式土器など縄文時代後期を中心に、縄文時代前期の曽畑式まで遡る土器がまとまって確認されている。さらにその北側の水源地遺跡では、約30年前、畑地造成の際に多量の弥生土器の完形品が出土したという話である。又、東側の、現在宮崎県畜産試験場がある大鹿倉遺跡では、広範囲での土器の散布が確認される他、落とし穴等の遺構も確認されている。その他、柳野遺跡・鷹巣谷遺跡・鷹巣原遺跡群・立脇遺跡・今房遺跡群などの大規模な遺跡が、これまでの表採調査によって確認されている。

このように、大谷遺跡を含めた周囲の環境は、人が住むには好条件の整った地域であった。ただ、当時活発な噴火活動を行っていた高千穂峰をはじめとする霧島連山が背後に控えているため、町内外の他地域よりも火山の被害に遭う確率が非常に高かった。そのせいか、遺跡の年代が連続することはあまりなく、断絶していることの方がむしろ多い。大谷遺跡もその例にもれず、土器の出土量から見れば、縄文時代後期土器の莫大な量に対して、それ以降の土器の量は、極端に少なくなっており、古代の土師器等が出土することはあまりない。又、平成10年3月に実施した試掘調査の際には、古代に相当する火山灰層に乱れがあり、以前の調査からも鑑みて、畠として使用されたものと思われる。しかし、発掘調査が1度しか行われていないため、遺跡の詳細は不明である。

発掘調査については、広域農道建設に伴って、宮崎県教育委員会により、平成7年6月から8月にかけて行われたが、その時、赤色火山灰下から畠の畝と思われる溝、時期不明の竪穴住居などの遺構の他、縄文時代後期土器、石器、土師器、鉄器などが出土した。この時出土した縄文時代後期の土器については、包含層から出土し、遺構は伴っていなかったということである。

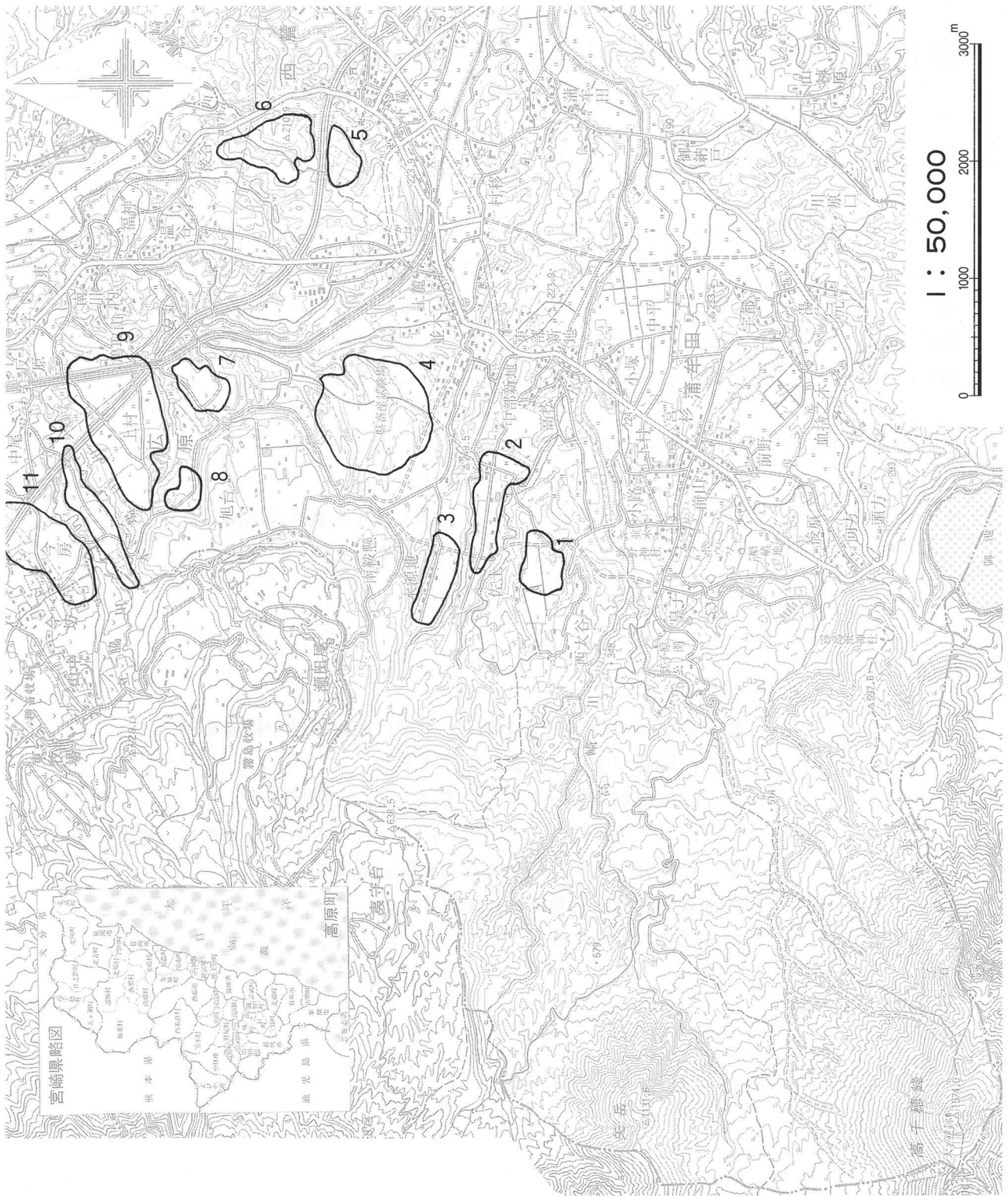
ちなみに、赤色火山灰については、平成10年3月に実施した試掘調査において、ボラ（高原スコリア）・白色火山灰・赤色火山灰が、それぞれ間に黒色土を挟んで確認された。そのうち、赤色火山灰については、薄いながらも堅く締まっている。同様の状態で、町内の他の地区の試掘調査でも確認された。

高原スコリアについては、最近までは古記録より延暦7年（788）という年代が与えられていたが、町内の荒迫遺跡（調査時遺跡名、広原地区遺跡）・立山遺跡で、スコリアの下の包含層から、9世紀後半から10世紀前半にかけての内黒土器・高台付椀・坏・円盤高台付椀・布痕土器などの土師器が出土したことによって、年代が再検討された。現在のところ高原スコリアは、11世紀から13世紀と広い幅でとらえられている。さらに古記録から推定すると、天永3（1102）年、仁和2（1157）年、寿永2（1173）年の3回に分かれて降灰したと考えられており、最初の788年という年代からは程遠いものになっている。ただ、7

88年にも大噴火があり、この地方に大被害があったことは間違いないので、何らかの痕跡が残るはずである。高原スコリアの下には、先に述べたように、白色火山灰と赤色火山灰があり、荒迫遺跡では、白色火山灰が混入した黒褐色層から、上記の内黒土器などの土師器が出土していることから、赤色火山灰が当初の年代であるものと推測したい。

このように、大谷遺跡については、依然不明確な点が多いが、表採土器に焦点を当てて検証された事例もある。横手浩二郎氏が『南九州縄文通信』第8号に寄稿した「宮崎県西諸県郡高原町大谷遺跡表採の土器資料」であるが、それによると、市来式・鐘崎式・北久根山式・辛川式・丸尾式・西平式等、縄文時代後期を代表する土器型式が確認されている。又、最近の表採資料から、その型式に含みづらいものも幾つか確認されており、大谷遺跡の土器型式の多様さがうかがわれる。

こういった理由により、土器の出土量に反比例している遺跡の性格について、表採資料から少しでも遺跡の性格を探るという目的で、今回報告書を作成した次第である。



- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 大谷遺跡   | 2. 佐土遺跡   | 3. 水源池遺跡  |
| 4. 大鹿倉遺跡群 | 5. 立山遺跡   | 6. 荒迫遺跡   |
| 7. 柳野遺跡   | 8. 鷹巢谷遺跡  | 9. 鷹巢原遺跡群 |
| 10. 立脇遺跡  | 11. 今房遺跡群 |           |

第1図 遺跡位置図及び広域周辺地形図

## 第Ⅱ章 表採資料の検討

### 第1節 遺物の考察（第2～9図）

大谷遺跡では、縄文時代時代後期をピークとした、縄文時代から平安時代時代までの遺物が大量に出土しているが、今回は最も出土量の多い縄文土器について考察する。ただ、大半が造成により壊れているため、接合できるのは全体からするとごくわずかであり、殆どは胴部等の断片である。又、膨大な量且つ表採であるため、様々な型式が混在していることもあり、この場だけの便宜上の分類として、口縁部の断面形態の状況により分類した。

- I類 口縁部が「く」字状に屈曲し、外反する。
  - A類 表裏共に「く」字を意識して屈曲する。
  - B類 表面のみわずかに肥厚して「く」字となり、裏面は屈曲しない。
  - C類 A類よりはっきりと「く」字状に屈曲する。
  - D類 屈曲部が不明確なもの。
  
- Ⅱ類 口縁部が肥厚する
  - A類 口縁部表面が肥厚する。
    - a類 肥厚部の器厚がほぼ均一、下端に明瞭な段や稜線を持つ。
    - b類 口縁部が中くぼみ状に肥厚する。
    - c類 口縁部が中脹らみ状（かまぼこ状）に肥厚する。
    - d類 口縁上部が通常の器厚で、口縁下部のみ断面三角形状に肥厚する。
    - e類 口縁部がわずかに断面三角形状に肥厚する。
  - B類 口縁部裏面が断面三角形状に肥厚する。
  - C類 口縁端部のみ肥厚する。
  
- Ⅲ類 素口縁
  
- Ⅳ類 頸部でくびれて、口縁部が外反する。
  
- Ⅴ類 その他

このように、口縁部の断面形態により5種類に分類した。以下、各種類ごとに紹介する。

#### I類（1～33）

今回掲載しているのは一部分だが、大谷遺跡の中で最も多く出土する形態である。多くは、鹿児島県埋蔵文化財センターの前迫亮一氏によって型式設定が成された「丸尾式」と呼ばれるもので、市来式の後続に位置する型式である。今回は「く」字状の口縁部断面形態に注目し、



A類（1～11）、B類（12～24）、C類（25～26）に大きく分類した。その他、D類として、屈曲部こそ確認できないものの、I類と推定されるものがあった（27～33）。

使用される文様には一定の規則があり、A～D類の中における文様差はあまり見られない。全てにおいて全てにおいて貝殻腹縁文が使用されている。文様については、

- a類 口縁上端～稜線・・・上から貝殻腹縁文、沈線＋刺突文、貝殻腹縁文の順に施文  
稜線 ～胴部・・・貝殻腹縁文のみ施文
- b類 a類の稜線下部文様が消失
- c類 a類の稜線上部の文様構成に乱れが起こる
- d類 稜線上下部共に貝殻腹縁文のみ施文（たまに口縁端部に貝殻腹縁文を追加施文する）
- e類 無文

のように、5種類に分類できる。

A類では、a～d類各種文様があるが、B・C類ではこれら5種類の他に、横位の凹線文と、斜方向の連続刺突文を施したものが登場する。

## II類（34～100）

口縁部が肥厚する一群であるが、大谷遺跡では、I類に次いで多く出土する。その殆どが口縁部に幅広の肥厚帯を持ち、文様も、一部裏面に施文するものもあるが、たいていは肥厚帯に集中する。今回はその肥厚帯について、A類（34～90）、B類（91）、C類（92～100）に分類した。又、その中でもA類については、その肥厚の仕方によりさらに分けることができ、a類（34～50）、b類（51～61）、c類（62～64）、d類（65～79）、e類（80～90）の5種類に分類した。ただ、b類とd類の区別を付けがたいものも含まれていたり、I類と見間違ふようなものなども含まれている。

文様は、a類では短直線を主体とした文様が多く、斜位の短沈線文（34～37）、横位の沈線文（38～40）、斜線を2組使用した綾杉文（41）、縦位の短沈線文（42～43）、連続刺突文（44～47）、横位の短沈線文（48～50）、などがある。なお、42には、口縁肥厚部の下に貼付文の一部が残存している。a類のみが、わりと単純な文様で構成されている。

b類の文様では、斜位の短沈線文（51～52）、横位の沈線文（53）のみがa類と共通するような文様である。その他は、肥厚部下端に刻目突帯を持つもの（54～57）や、一見II-A-d類と混同するが、口縁部上端で明確に稜線を作っている一群（58～61）、等がある。文様は、短沈線文（58）、刺突文と貝殻条痕文の組合せ（59）、連続刺突文と沈線の組合せ（60～61）、等がある。又、裏面に施文するものも見られ（53・58）、短沈線文が主体だが、53ではさらに作り、施文法が非常に雑な把手を貼り付ける。その他、口唇部に縄文を施すものも見られた（57）。

c類は殆ど見ることはないが、口縁部上端に貝殻腹縁文、その下に横位の沈線を施すもの（62）、貝殻腹縁文を施すもの（63）、無文（64）がある。64ではさらにM字の貼付文を施す。

d類の文様は、他類と同様のものが多いが、その他では豎杵状の縦位短沈線文（77）、山

形口縁頂部及び口唇部に縄文を施すもの（78）などがある。

e類の文様は、わずかに肥厚する口縁部に、浅い斜位の沈線を施すものが主流だが、横位の貝殻腹縁文を施すもの（87）や、口唇部に縄文を施すもの（80）などがある。

B類は1点見られた（91）。口縁部裏側が三角形に肥厚し、沈線・竹管円文などを施す。松山式と思われるものである。

C類は、口縁部上端のみ三角形に肥厚したものである。文様は、肥厚部に集中するものと、口縁部から胴部にかけて施文するものがある。92は肥厚部に1本横位の沈線を施文、その下に貝殻腹縁文を施している。その他、横位の連続刺突文（93～95）、等の文様を施す。

又、縄文を施すものがよく見られた（96～100）。多くは口縁肥厚部に充填するか、口縁部から胴部にかけて、沈線で区画された中に縄文を施しているもの、と2種類ある。96・98・99は口縁肥厚部に縄文を施しているが、98は裏面に渦巻文、99は胴部の沈線区画外にも縄文を施している。97・100は口縁肥厚部に、短沈線文・渦巻文・刺突文などを施す。ただ、縄文の施文方法については、かなり雑である。

### Ⅲ類（101～106）

胴部より真直ぐに口縁部が立ち上がる一群である。その殆どは口縁部上端より少し下に貝殻腹縁文を施している（101～104）。106は一応口縁部が肥厚しているものの、湾曲は全く見られない。又、非常に特徴のある貼付文を施している。106は非常に雑な縦位の短沈線を施文している。

### Ⅳ類（107～112）

頸部より緩やかに外反する一群で、器厚は殆ど変化しない。文様は、貝殻腹縁文が殆どで、施文場所も頸部のくびれた所と決まっている（107～111）。111のみ口唇部がほんの少し受け口状となる。112は口縁部上端に縄文、頸部下に沈線と縄文を施す。

### Ⅴ類（113～123）

ここでは、上の分類では分けにくいものを掲載している。

113～115は北久根山式の深鉢である。表裏とも篋で磨き、沈線で作った区画内に縄文を充填している。

116は西平式の深鉢である。口縁部を「く」字状に強く屈曲させ、内側に向いた部分を文様帯とする。沈線で区画した中に縄文を充填し、波頂部には「V」字状の切り込みを入れる。

117・118は台付皿である。主に内側に文様を施している。貝殻腹縁文を施すもの（117）と、沈線と竹管円文を施したもの（118）がある。

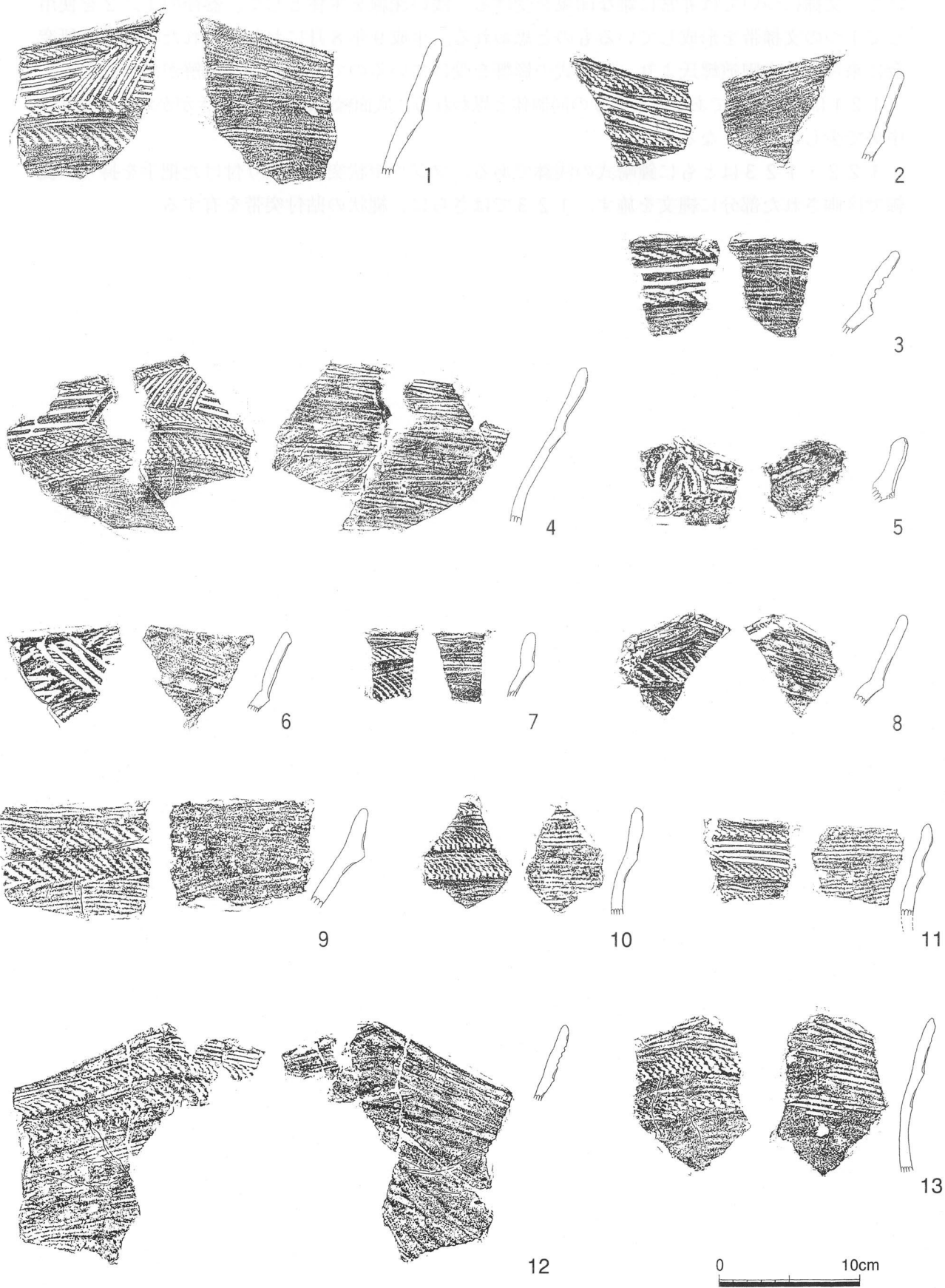
119は曾畑式の口縁部である。特徴的な横位の短沈線を施している。

120は型式不明の深（浅？）鉢である。口縁部から胴部にかけて約1/3残存している。胴部が脹らみ、頸部でくびれており、口縁部～胴部にかけて四方向にそれぞれ突帯を付している。

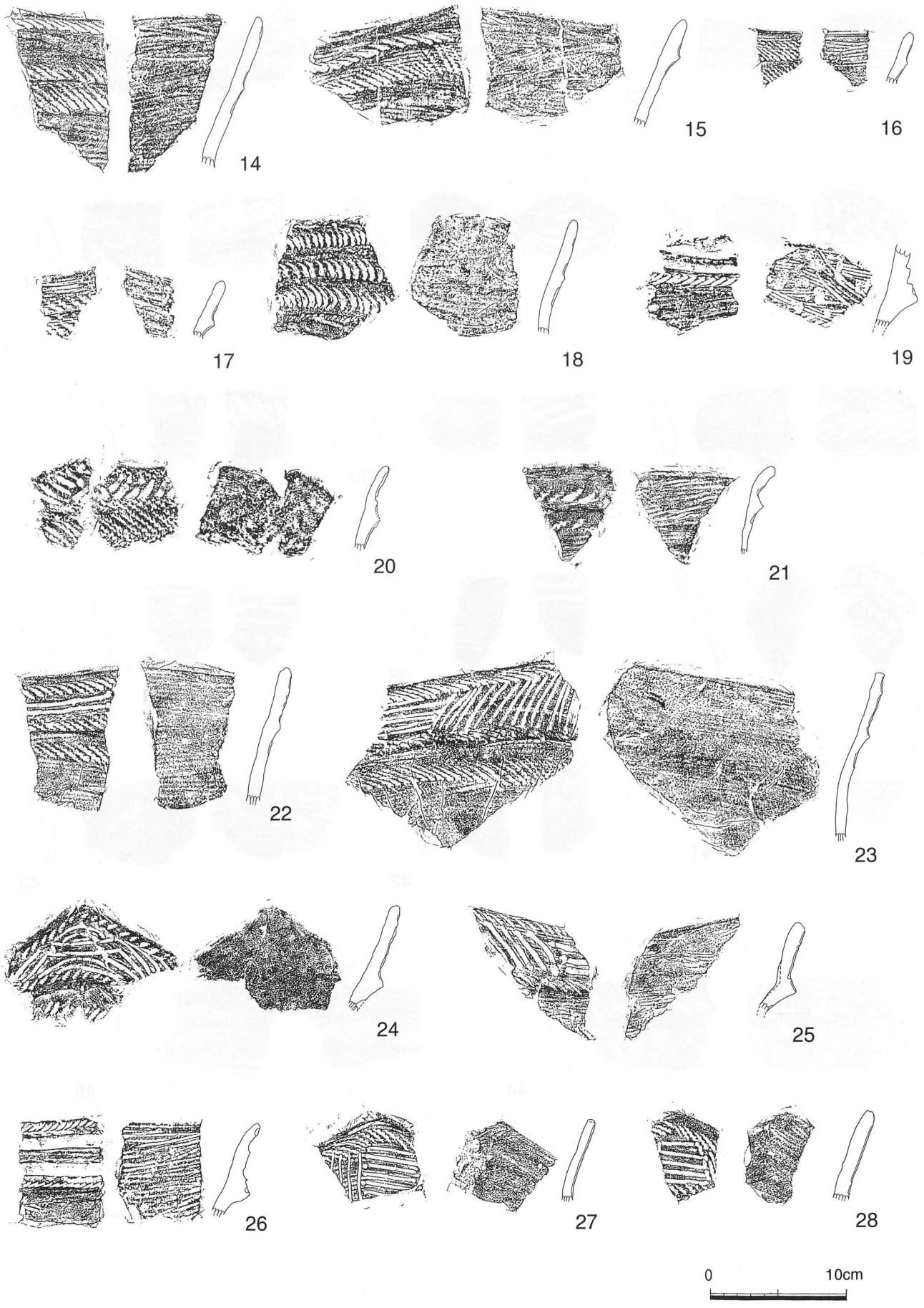
口唇部には「V」字状の突起を付け、頸部から胴部にかけてはフジツボ状の突起を2個ずつ付ける。文様については非常に雑な印象を受ける。浅い沈線を主体として、器径の1/2を使用して1つの文様帯を形成しているものと思われる。平成9年8月におこなわれた宮崎縄文研究会に來られた本田道輝氏より、草野式の影響を受けているのでは、という見解が出された。

121は底部断片である。120の同個体と思われる。底面縁辺部は白く磨きがかかっており、中央で少し上げ底となる。

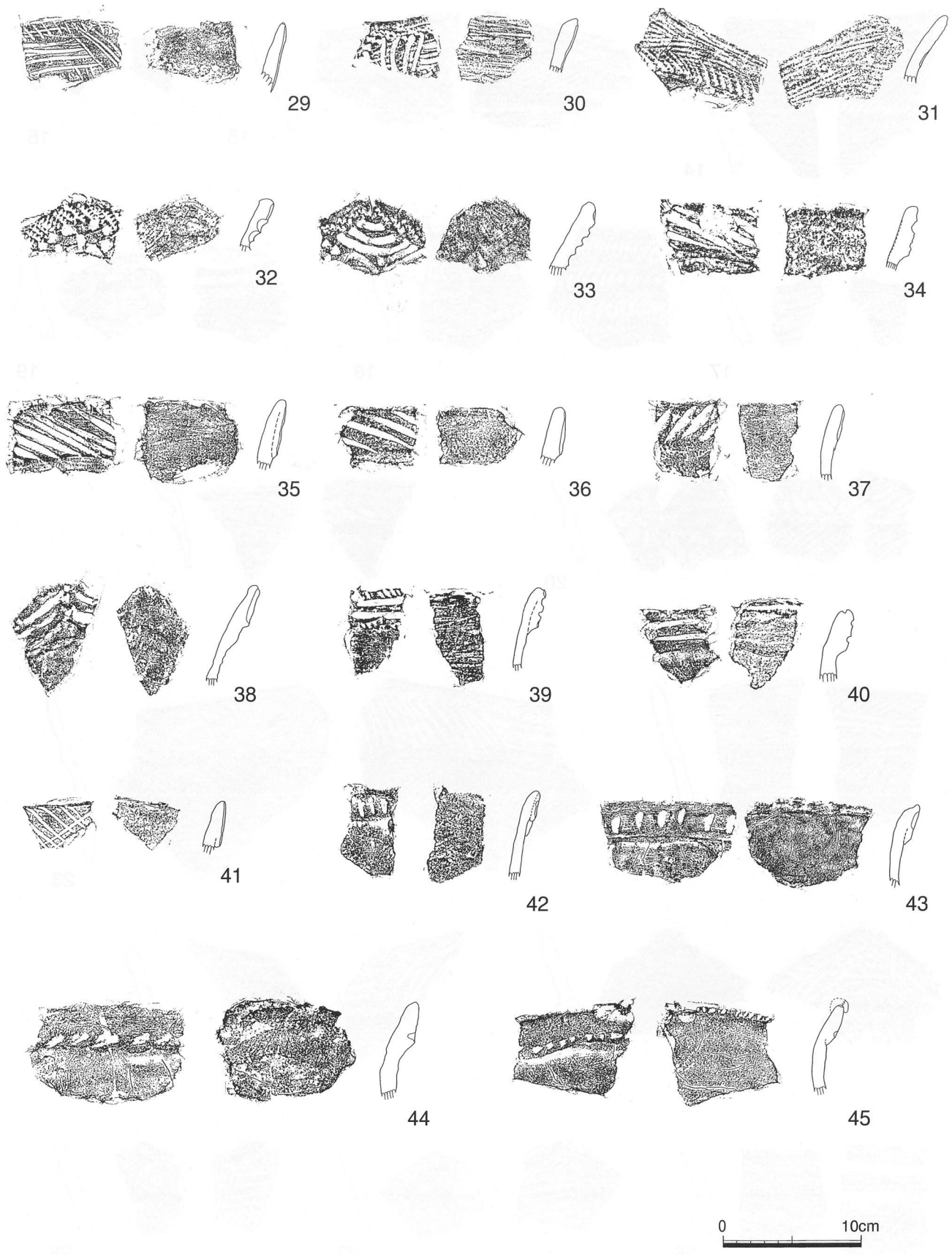
122・123はともに鐘崎式の浅鉢である。フジツボ状突起を貼り付けた把手を持ち、沈線で区画された部分に縄文を施す。123ではさらに、縄状の貼付突帯を有する。



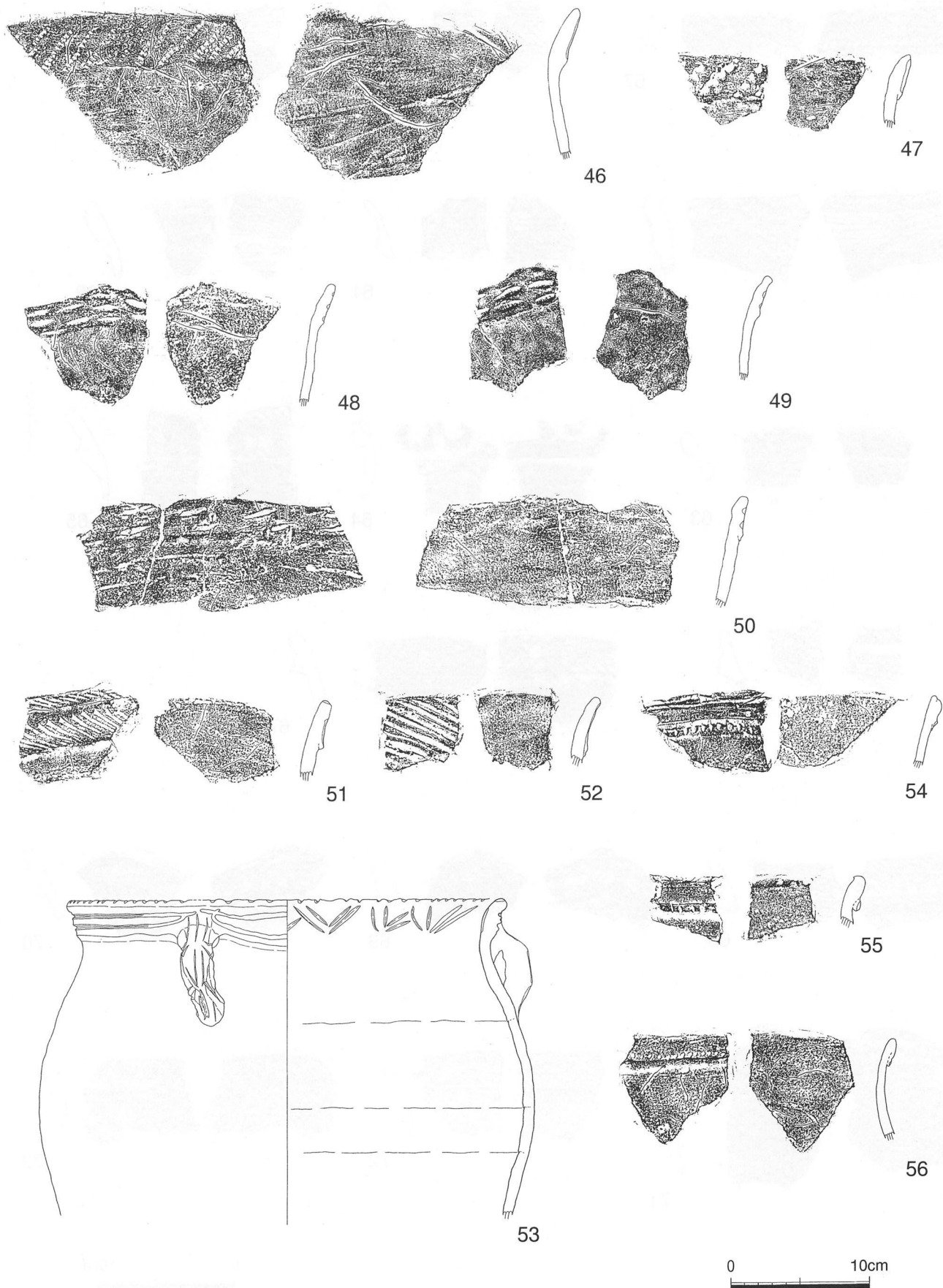
第2図 大谷遺跡表採土器実測図(1)



第3図 大谷遺跡表採土器実測図(2)



第4図 大谷遺跡表採土器実測図(3)

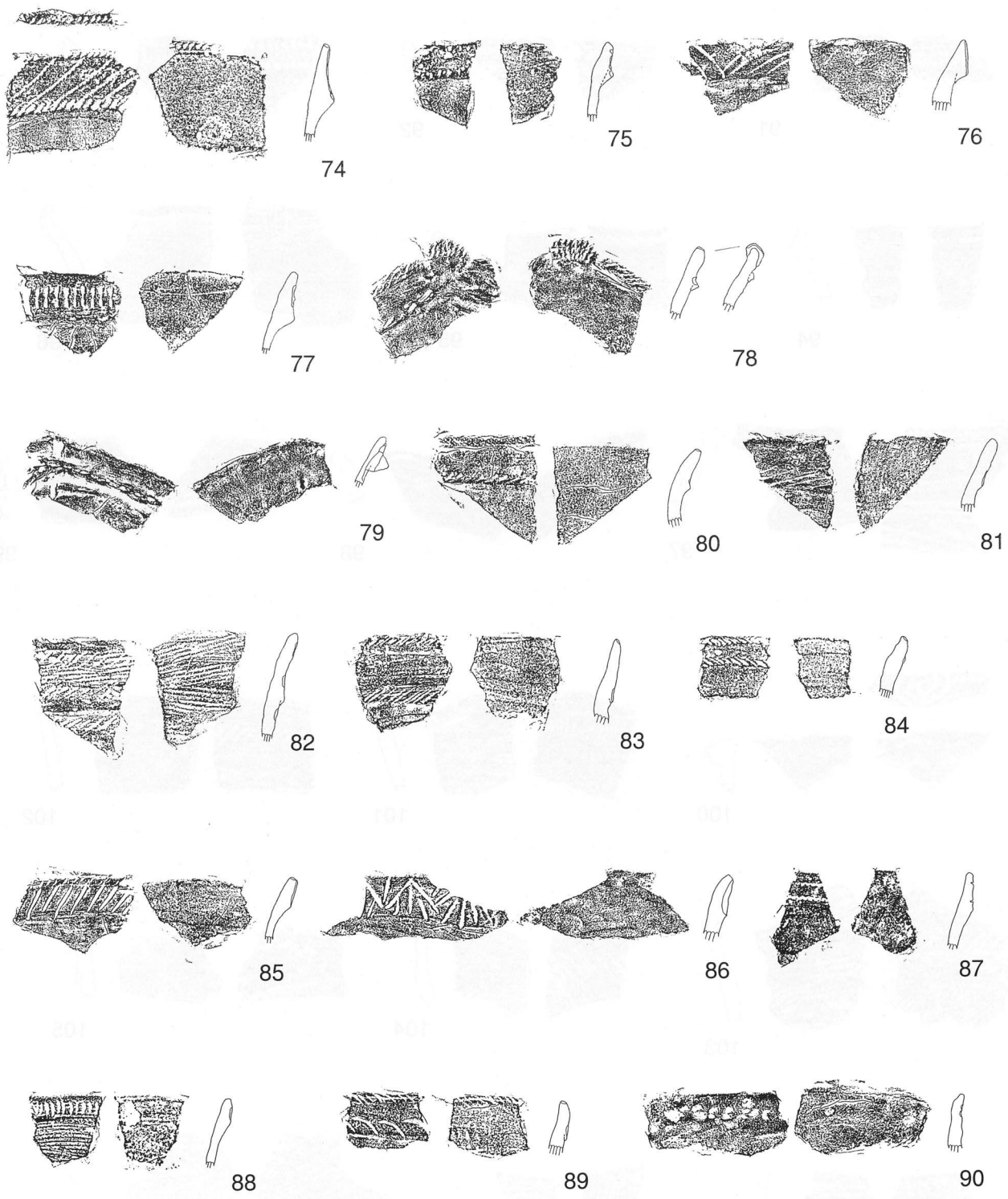


第5図 大谷遺跡表採土器実測図(4)

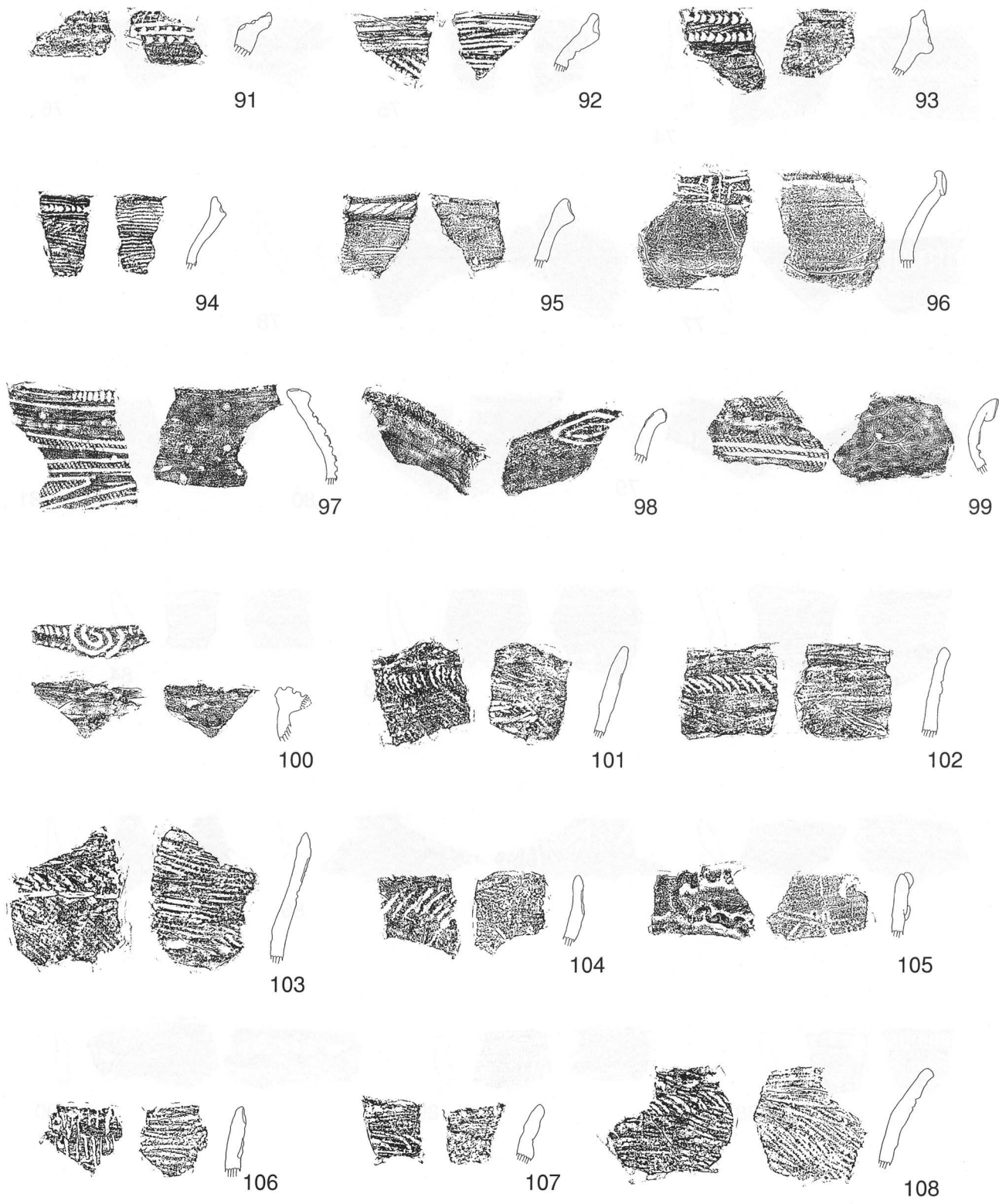


第6图 大谷遺跡表採土器実測図(5)

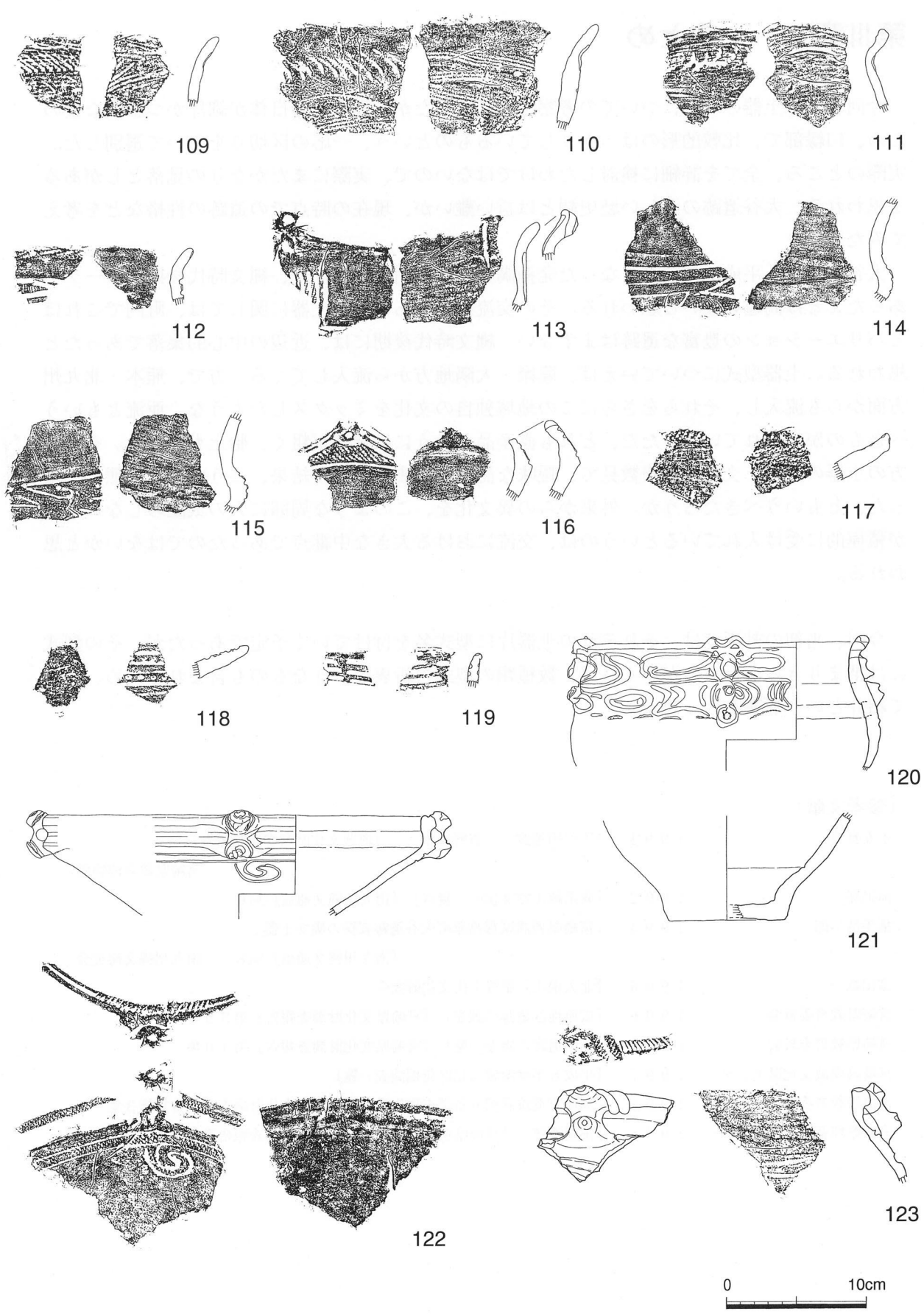




第7図 大谷遺跡表採土器実測図(6)



第8図 大谷遺跡表採土器実測図(7)



第9図 大谷遺跡表採土器実測図(8)

### 第Ⅲ章 まとめ

今回、表採土器の一部についての考察をおこなったが、表採土器自体が細片かつ膨大な量のため、口縁部で、比較的形のはっきりしているものという、一応の区切りをおいて選別した。実際のところ、全てを詳細に検討したわけではないので、実際にまだかなりの見落としがあると思われる。大谷遺跡の正しい歴史観とは言い難いが、現在の時点での遺跡の性格などを考えてみたい。

大谷遺跡は、平成7年におこなった発掘調査でも判明したように、縄文時代後期がピークであったことは間違いなしと思われる。その交流の幅であるが、土器に関しては、町内でこれほどバリエーションの豊富な遺跡はまずない。縄文時代後期には、近辺の中心的集落であったと思われる。土器型式についていえば、薩摩・大隅地方から流入してくる一方で、熊本・北九州方面からも流入し、それらをさらにこの地域独自の文化をミックスしたような、亜流ともいうべきものが造られている。ただ、どれも直産品というには造りが粗く、胎土も異なる。その地方の土器の形態・文様等を複数見て、曖昧な記憶のまま作成した結果、こういった形態にいたった、ともいうべきだろうか。外来からの異文化を、このような周囲に人の気配のしない地域が積極的に受け入れているというのは、交流における大きな中継点であったのではないかとと思われる。

今回、当初の計画では、それぞれの土器片に型式名を付けていく予定であったが、その型式には納まりきれないものが多く、又、数種類の型式の折衷のようなものも含まれるため、あえて紹介という形態をとった。

#### (参考文献)

- |              |      |   |
|--------------|------|---|
| 永友良典         | 1991 | 「下弓田遺跡 -資料編1-」『埋蔵文化財調査研究報告』Ⅳ<br>宮崎県総合博物館          |
| 前迫亮一         | 1992 | 「異系統土器文化の一接点」『南九州縄文通信』No.6                        |
| 横手浩二郎        | 1994 | 「宮崎県西諸県郡高原町大谷遺跡表採の縄文土器」<br>『南九州縄文通信』No.8 南九州縄文研究会 |
| 富田紘一         | 1996 | 『北久根山』肥後上代文化研究会                                   |
| 宮崎県教育委員会     | 1996 | 「広原地区遺跡の調査」『宮崎県文化財調査報告』第39集                       |
| 宮崎県教育委員会     | 1997 | 「県内遺跡の調査一覧」『宮崎県文化財調査報告』第40集                       |
| 宮崎県埋蔵文化財センター | 1997 | 『平成8年度埋蔵文化財発掘調査一覧』                                |
| 高原町教育委員会     | 1998 | 「高原町遺跡詳細分布調査報告書」『高原町文化財調査報告書』第3集                  |
| 宮崎県埋蔵文化財センター | 1998 | 「荒迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第11集                   |

第1表 大谷遺跡表採土器観察表(1)

遺物 番号	器種 部位	調整		文様		色調		胎土	備考
		外面	内面	外面	内面	外面	内面		
1	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突) 斜位沈線	なし	黒褐 (Hue2.5Y 1/3)	橙 (Hue5YR 6/6) 褐灰 (Hue10YR 1/4)	1mmの透明砂粒、0.5mmの白色砂粒を多く含む	丸尾式に相当
2	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突)	なし	橙 (Hue5YR 6/6) 黒褐 (Hue5YR 3/1)	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4)	0.5mmの黄灰色砂粒を少し含む	丸尾式に相当
3	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突) 斜位沈線	なし	橙 (Hue2.5YR6/6) 赤灰 (Hue2.5YR4/1)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5mmの白色砂粒を多く含む	丸尾式に相当
4	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	明赤褐 (Hue5YR 5/8)	1~1.5mmの白色砂粒を多く含む	丸尾式に相当
5	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	刺突文 横位沈線 同心半円状沈線	なし	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	灰黄 (Hue2.5Y 6/2) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.5~1.5mmの灰黄色砂粒を多く含む	
6	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の散漫な貝殻腹縁文 斜位・横位沈線 (端部刺突)	なし	にぶい褐 (Hue7.5YR5/3) 黒褐 (Hue7.5YR3/1)	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4)	0.5mm以下の白色砂粒を多く含む	
7	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	褐灰 (Hue10YR 4/1) にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.2mmの黄灰色砂粒を少し含む	
8	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1) 褐灰 (Hue10YR 6/1)	黒褐 (Hue10YR 3/1)	0.5~1mmの白色砂粒を多く含む	
9	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文	なし	橙 (Hue5YR 7/8) 黄灰 (Hue2.5Y 5/1)	橙 (Hue5YR 6/8) 浅黄橙 (Hue10YR 8/4)	1mmの黄灰色砂粒、0.5~1mmの透明鉱物を多く含む	
10	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	橙 (Hue5YR 6/6)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5~1mmの白色砂粒、0.2~0.3mmの透明鉱物を多く含む	
11	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1) 橙 (Hue7.5YR6/6)	黒褐 (Hue7.5YR7/6)	0.5mm以下の透明鉱物、0.5~1mmの灰黄色砂粒を多く含む	丸尾式に相当
12	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突)	なし	灰 (N 4/0)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	0.5~2mmの無色砂粒を多く含む	
13	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR6/3) 黒褐 (Hue10YR3/1)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5~1mmの黄灰色砂粒を多く含む、2~5mmの赤褐色石を少し含む	
14	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	褐灰 (Hue10YR 4/1) にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4)	橙 (Hue5YR 6/6)	1mmの白色・黄灰色砂粒を多く含む	
15	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	灰褐 (Hue7.5YR5/2)	0.5mmの黄灰色砂粒・黒色鉱物を多く含む	
16	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1) 橙 (Hue5YR 6/6)	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	0.2mmの黒色鉱物を多く含む	
17	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	黄灰 (Hue2.5Y 4/1)	黄灰 (Hue2.5Y 4/1) にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5~1mmの黄灰色砂粒を多く含む	
18	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	縦位の爪形文	なし	オリーブ黒 (Hue7.5Y 3/1) 灰 (Hue7.5Y 4/1)	灰 (Hue5Y 4/1)	1~2mmの黄褐色砂粒、0.5mmの透明鉱物を多く含む	

第2表 大谷遺跡表採土器観察表(2)

遺物 番号	器種 部位	調 整		文 様		色 調		胎 土	備 考
		外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面		
19	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	横位の凹線文 斜方向の連続刺突文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	橙 (Hue7.5YR7/6) 褐灰 (Hue10YR 4/1) 灰白 (Hue2.5Y 7/1)	1mmの黄灰色砂粒、黒色 鉱物、2mm前後の透明鉱 物を多く含む	
20	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 斜方向の連続短沈線文 (端部刺突)	なし	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 褐灰 (Hue7.5YR4/1) 青黒 (10BG 2/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR6/3) 暗灰 (N 3/0)	0.5~2mmの金色雲母 を多く含む	
21	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4)	0.5mmの黄灰色砂粒を 少し含む	
22	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(断面刺突)	なし	褐灰 (Hue7.5YR4/1)	明赤褐 (Hue5YR 6/6)	0.5mm以下の光沢砂粒 を多く含む	
23	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突) 斜位沈線	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	明赤褐 (Hue5YR 5/6)	2mm前後の黄灰色砂粒、 0.5mmの金色雲母を多 く含む	丸尾式に 相当
24	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 不定方向の沈線	なし	黒褐 (Hue5YR 3/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4) 褐灰 (Hue7.5YR4/1)	1mmの褐色砂粒、1~2 mmの金色雲母を多く含む	
25	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突) 斜位沈線(端部刺突)	なし	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 黒褐 (Hue5YR 3/1)	赤 (Hue10R 5/6)	0.5mmの黒色砂粒を多 く含む	
26	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕	斜方向の連続刺突文 横位凹線文	なし	褐灰 (Hue10YR 4/1) 明赤褐 (Hue5YR 5/6)	明赤褐 (Hue5YR 5/6)	1mmの黄灰色砂粒を多く 含む	
27	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突) 縦位沈線	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	明赤褐 (Hue5YR 5/6)	0.2mmの白色砂粒を多 く含む	
28	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 横位沈線(端部刺突)	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5~1mmの白色砂粒 を多く含む	
29	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の連続短沈線 横位沈線 斜位沈線	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1) 黄灰 (Hue2.5Y 5/1)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	0.5~1mmの黄灰色砂 粒を多く含む	
30	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文 縦位沈線(端部刺突)	なし	褐灰 (Hue7.5YR4/1)	暗灰 (N 3/0)	0.5mm以下の白色砂粒 を多く含む	
31	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向の貝殻腹縁文	なし	明赤褐 (Hue5YR 5/6) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	灰黄褐 (Hue10YR 4/2)	0.5mm前後の黒色光沢 鉱物、0.5~2mmの透 明砂粒を多く含む	
32	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 斜位の短凹線文 (端部刺突)	なし	浅黄 (Hue2.5Y 7/3) 暗灰 (N 3/0)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.2~2mmの金色雲母、 1mmの黄灰色砂粒を多 く含む	
33	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の貝殻腹縁文 不定方向の短凹線 (端部刺突)	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1) にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5mmの褐色砂粒、0. 5~2mmの金色雲母を多 く含む	
34	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の短凹線文	なし	褐灰 (Hue7.5YR4/1)	赤褐 (Hue2.5YR4/6) にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	1mmの灰色砂粒、黄灰色 砂粒を多く含む	朱の痕跡 ?
35	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の短凹線文	なし	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	橙 (Hue7.5YR6/6)	1~2mmの白色砂粒、3 ~4mmの橙色砂粒を多 く含む	
36	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の短凹線文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	2mmの黄灰色砂粒を多 く含む	
37	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の短凹線文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	2mmの白色砂粒を少し 含む	

第3表 大谷遺跡表採土器観察表(3)

遺物 番号	器種 部位	調整		文様		色調		胎土	備考		
		外面	内面	外面	内面	外面	内面				
38	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	横位短凹線文 縦位凹点文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	灰褐 (Hue7.5YR4/2) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	1mm前後の黄灰色砂粒、 灰色砂粒、0.5mm以下 の透明光沢鉱物を多く含 む	
39	深鉢 口縁部	ミ	ガキ	ミ	ガキ	斜方向の連続刺突文 横位沈線	なし	にぶい褐 (Hue7.5YR5/3) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5mmの白色砂粒を多 く含む	
40	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	横位沈線 (口唇部・口縁部)	なし	橙 (Hue7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	2~3mmの橙色砂粒を少 し含む	
41	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位沈線の組み合わせ	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	0.5mmの黄灰色砂粒を 少し含む	
42	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	縦方向の連続刺突文	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/2)	1mmの白色砂粒を少し含 む	
43	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	縦方向の連続刺突文	なし	暗灰 (N 3/0)	橙 (Hue7.5YR6/8) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	1mmの透明砂粒を多く含 む	
44	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜方向の連続刺突文	なし	黒褐 (Hue2.5Y 3/1) 橙 (Hue7.5YR7/6)	灰黄褐 (Hue10YR 5/2) 明黄褐 (Hue10YR 7/6)	1~1.5mmの黄灰色砂 粒、1mmの透明砂粒を多 く含む	煤付着
45	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ ミ	デ ガキ	口唇部連続刺突文 口縁部連続刺突文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.2~0.3mmの光沢 鉱物を多く含む	
46	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位連続刺突文を斜方 向に施文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 暗灰 (N 3/0)	橙 (Hue7.5YR6/6)	0.2~0.3mmの透明 光沢砂粒を多く含む	口縁部 煤付着
47	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位半円状連続刺突文 を斜方向に施文	なし	にぶい橙 (Hue5YR 6/3) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/3)	3mmの赤褐色砂粒を少 し含む	
48	深鉢 口縁部	ナ	デ	ミ ナ	ガ キ デ	横位短沈線を横方向に 施文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3) 灰 (N 4/0)	1mmの白色透明砂粒を多 く含む	
49	深鉢 口縁部	ナ	デ	ミ ナ	ガ キ デ	横位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4) 暗灰 (N 3/0)	0.5~1mmの灰色砂粒 を少し含む	
50	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位短沈線を横方向に 施文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4) 橙 (Hue7.5YR6/6) 黒褐 (Hue7.5YR3/1)	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	0.5~1.5mmの黄灰 色砂粒を多く含む	
51	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 斜方向連続刺 突文 口縁部 斜方向連続刺 突文	なし	黒褐 (Hue2.5Y 3/1)	明赤褐 (Hue5YR 5/6)	0.5~1mmの透明砂粒 を多く含む	
52	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜方向連続短沈線	なし	灰黄褐 (Hue10YR 6/2) 暗灰 (N 3/0)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	2mmの白色砂粒を多く含 む	
53	深鉢 口縁部 ~胴部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部刻み目 横位沈線 不定方向沈線付把手	綾杉状短 沈線	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4) 黒褐 (Hue7.5YR3/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/3)	1mmの白色、灰色、黒色 砂粒を多く含む	北久根山 式に相当 胴部 煤付着
54	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	刻目文	なし	褐灰 (Hue10YR 4/1) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 灰黄褐 (Hue10YR 6/2)	2mmの黄灰色砂粒を少 し含む	
55	深鉢 口縁部	ナ ミ	デ ガキ	ナ	デ	刻目文	なし	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 暗灰 (N 3/0)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	1~3mmの透明鉱物、0. 2~0.5mmの黄灰色砂 粒を多く含む	

第4表 大谷遺跡表採土器観察表(4)

遺物 番号	器種 部位	調整		文様		色調		胎土	備考
		外面	内面	外面	内面	外面	内面		
56	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	刻目文	なし	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4) 褐灰 (Hue7.5YR4/1)	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.2~0.3mmの白色 光沢鉱物を多く含む	
57	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	口唇部 縄文 口縁部 斜方向連続刺 突文	なし	灰 (Hue5Y 5/1)	灰 (Hue5Y 5/1)	1mmの透明砂粒を少し、 0.5mmの黄灰色砂粒を 多く含む	
58	深鉢 口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	斜方向連続短沈線	斜方向連 続短沈線	黒褐 (Hue10YR 3/1)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5mmの白色砂粒を少 し、1mmの透明砂粒を多 く含む	
59	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	横位貝殻条痕文 縦位連続刺突文	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1) にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	黒褐 (Hue7.5YR3/1) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	0.5~2mmの白色砂粒、 0.5~1mmの白色鉱物 を多く含む	
60	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の連続刺突文 横位沈線	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	橙 (Hue7.5YR6/6)	0.2~1mmの黄灰色砂 粒を多く含む	
61	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の連続刺突文 横位短沈線	なし	橙 (Hue7.5YR6/6)	灰黄 (Hue2.5Y 6/2) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.3mmの白色砂粒を多 く含む	
62	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜位の貝殻腹縁文 横位沈線	なし	暗灰黄 (Hue2.5Y 5/2)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	1~2mmの白色砂粒、透 明砂粒、黒色砂粒を多く、 1mmの金色雲母を少し含 む	
63	深鉢 口縁部	ミガキ ナ デ	ナ デ	斜位の貝殻腹縁文	なし	暗灰 (N 3/0)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/3)	0.5~1mmの黄灰色砂 粒を多く含む	
64	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	口唇部 M字貼付文	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	橙 (Hue5YR 6/8)	0.5~2mmの黄灰色砂 粒を多く含む	北久根山 式に相当
65	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜方向の連続刺突文 横位凹点文	なし	灰 (Hue5Y 4/1) オリーブ黒 (Hue5Y 3/1) 灰白 (Hue7.5Y 7/1)	灰黄 (Hue2.5Y 6/2)	0.2~0.5mmの灰色 鉱物を多く含む	
66	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	斜方向の連続刺突文 横位凹線文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	暗灰 (N 3/0)	0.5mmの金色雲母、1 mmの黄灰色砂粒を多く含 む	
67	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	口唇部 斜方向連続刺 突文 口縁部 斜方向連続刺 突文 凹点文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	暗灰 (N 3/0) 灰黄褐 (Hue10YR 5/2) 灰黄 (Hue2.5Y 6/2)	1mmの白色砂粒を多く含 む	
68	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕	斜方向連続刺突文 横位凹線文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.5mmの黄灰色砂粒を 多く含む	
69	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	横方向連続刺突文	なし	暗灰 (N 3/0)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3) 灰黄褐 (Hue10YR 6/2)	0.5mmの黄灰色砂粒を 多く含む	
70	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	横方向連続刺突文	なし	橙 (Hue7.5YR7/6) 暗灰 (N 3/0)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	1~3mmの灰色砂粒を多 く含む	煤附着
71	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	扇状刺突文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue7.5YR4/1)	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	0.5mm以下の光沢砂粒 を多く含む	
72	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ デ	貝殻条痕 ナ デ	斜位連続刺突文を斜方 向に施文	なし	橙 (Hue7.5YR7/6) 褐灰 (Hue7.5YR5/1)	橙 (Hue7.5YR7/6) 褐灰 (Hue7.5YR4/1)	0.5mmの黄灰色、白色 砂粒を多く含む	



第5表 大谷遺跡表採土器観察表(5)

遺物 番号	器種 部位	調		文	様	色		胎	土	備考
		外	内			外	内			
73	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位貝殻腹縁文を横方向に施文	なし	灰黄褐 (Hue10YR 5/2) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4)	0.5mmの透明鉱物を多く、2mm強の黄灰色砂粒を少し含む
74	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 斜方向連続刺突文 口縁部 斜位貝殻腹縁文を斜方向に施文	なし	暗灰 (N 3/0) にぶい黄 (Hue2.5Y 6/3)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3)	0.5mmの黄灰色砂粒、透明鉱物を多く含む
75	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	横方向の連続刺突文 斜位貝殻腹縁文を斜方向に施文	なし	橙 (Hue5YR 6/6) 褐灰 (Hue10YR 5/1) 暗灰 (N 3/0)	橙 (Hue5YR 6/6) 灰黄 (Hue2.5Y 6/2)	0.5mmの白色砂粒を多く含む
76	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位貝殻腹縁文を斜方向に施文	なし	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4) 灰 (Hue5Y 4/1)	1.5~2mmの褐色砂粒を多く含む
77	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	縦位縦杵状刺突文を横方向に施文	なし	褐灰 (Hue10YR 4/1)	橙 (Hue7.5YR6/6)	1mmの透明砂粒、黄灰色砂粒を多く含む
78	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 縄文 口縁部 斜位刺突文 波頂部に貼付突帯	なし	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	0.5~1mmの黄灰色砂粒を多く含む
79	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	刻目突帯	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐灰 (Hue10YR 5/1)	1mmの黄灰色砂粒を少し含む
80	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 縄文 口縁部 斜位刺突文を横方向に施文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐灰 (Hue7.5YR4/1)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5~1mmの黒色鉱物を多く含む
81	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位刺突文を横方向に施文	なし	黄灰 (Hue2.5Y 4/1)	灰黄 (Hue2.5Y 6/2)	0.2~0.3mmの黄灰色砂粒を多く含む
82	深鉢 口縁部			貝殻条痕	貝殻条痕	斜位貝殻腹縁文を斜方向に施文	なし	黒褐 (Hue10YR 3/1)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	1mmの透明砂粒、0.5mmの黄灰色砂粒を多く含む
83	深鉢 口縁部	ミ	ガ	ミ	ガ	斜位刺突文を横方向に施文	なし	暗灰 (N 3/0)	褐灰 (Hue10YR 4/1) 橙 (Hue5YR 6/6)	0.5mmの透明光沢鉱物、1mmの黄灰色、白色砂粒を多く含む
84	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位刺突文を横方向に施文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/3)	橙 (Hue5YR 6/6)	1~2mmの灰色砂粒、橙色砂粒を少し含む
85	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 斜位の貝殻腹縁文 口縁部 斜位沈線を横方向に施文	なし	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1)	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4) 灰 (Hue5Y 4/1)	2mmの褐色砂粒、0.5mmの透明砂粒を少し含む
86	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	不定方向の短沈線	なし	明赤褐 (Hue5YR 5/6) 橙 (Hue7.5YR7/6) 暗灰 (N 3/0)	橙 (Hue7.5YR6/6)	0.5~3mmの黄灰色砂粒を多く含む
87	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	斜位貝殻腹縁文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	1mmの透明砂粒、0.5mmの透明鉱物を少し含む
88	深鉢 口縁部			貝殻条痕	ナ	縦位貝殻腹縁文を横方向に施文	なし	灰黄褐 (Hue10YR 6/2)	灰白 (Hue10YR 7/1) 褐灰 (Hue10YR 4/1)	1~2mmの灰黄色砂粒を少し含む
89	深鉢 口縁部	ナ	デ	ナ	デ	口唇部 斜位刺突文 口縁部 斜位爪形文	なし	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1) 黄灰 (Hue2.5Y 6/1)	灰 (Hue7.5Y 5/1)	1~3mmの黄灰色砂粒を多く含む
90	深鉢 口縁部	ナ	デ	ミ	ガ	刺突文を横方向に施文	なし	黒褐 (Hue7.5YR3/1)	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	0.5~2mmの黄灰色砂粒を多く含む

第6表 大谷遺跡表採土器観察表(6)

遺物 番号	器種 部位	調 整		文 様		色 調		胎 土	備 考
		外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面		
91	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕 ナ	なし	横位沈線 竹管円文	にぶい褐 (Hue7.5YR5/4)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.2~0.3mmの黒色 鉱物を多く含む	松山式に 相当
92	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	凹点文 斜位貝殻腹縁文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR6/4) 暗 灰 (N 3/0)	橙 (Hue5YR 6/6)	1mmの白色砂粒を多く含 む	
93	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	ナ デ	D字刺突文を横方向に 施文	なし	橙 (Hue5YR 6/6)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	1mmの灰色砂粒を多く含 む	
94	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	D字刺突文を横方向に 施文	なし	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4) 褐 灰 (Hue10YR 4/1)	灰 黄 褐 (Hue10YR 5/2)	1mmの黒色砂粒を少し含 む	
95	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	ナ デ	斜位刺突文を横方向に 施文	なし	橙 (Hue7.5YR6/6) 褐 灰 (Hue10YR 4/1)	橙 (Hue5YR 6/6)	0.5~1mmの黄灰色砂 粒を多く含む	
96	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	縦・横位沈線	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐 灰 (Hue10YR 4/1)	黒 褐 (Hue2.5Y 3/1)	0.5mmの黒色光沢鉱物 を多く含む	
97	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	縦位刺突文 横・斜位沈線 縄文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/3)	黄 灰 (Hue2.5Y 5/1)	精 良	
98	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	縄文	渦巻文 縄文	浅黄橙 (Hue10YR 8/4)	浅黄橙 (Hue10YR 8/3)	精 良	
99	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	横位沈線 縄文	なし	灰 黄 (Hue2.5Y 7/2)	灰 白 (Hue2.5Y 8/2)	精 良	
100	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	渦巻文 斜位刺突文	なし	褐 灰 (Hue10YR 5/1)	黄 灰 (Hue2.5Y 5/1)	1mm前後の黄灰色砂粒を 多く含む	
101	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	縦位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	黒 褐 (Hue10YR 3/1) 橙 (Hue7.5YR6/6)	黒 褐 (Hue7.5YR3/1)	0.5mmの黒色鉱物を多 く含む	
102	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を斜方 向に施文	なし	黒 褐 (Hue10YR 3/1)	橙 (Hue5YR 6/6) にぶい赤褐 (Hue2.5YR5/4)	0.5~1mmの黄灰色砂 粒、0.2~1mmの透明 鉱物を多く含む	
103	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を斜方 向に施文 横位短沈線を横方向に 施文	なし	黒 褐 (Hue7.5YR3/1) 橙 (Hue5YR 6/6)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5mm前後の白色砂粒、 0.2~1mmの透明鉱物 を多く含む	
104	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	橙 (Hue5YR 6/6) 褐 灰 (Hue5YR 4/1)	黒 褐 (Hue7.5YR3/1)	0.1mmの透明鉱物を多 く含む	
105	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	貼付突帯	なし	黒 褐 (Hue10YR 3/1)	褐 灰 (Hue10YR 4/1)	1mmの黄灰色砂粒を多 く含む	
106	深鉢 口縁部	ナ デ	貝殻条痕 ナ	縦位短沈線	なし	褐 灰 (Hue10YR 4/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	1.5mmの赤褐色砂粒を 多く含む	
107	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 褐 灰 (Hue10YR 4/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4) 褐 灰 (Hue10YR 4/1)	1mmの黄灰色砂粒、0. 2mmの黒色鉱物を多く含 む	
108	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1)	灰 (Hue5Y 4/1)	0.5mmの黄灰色砂粒、 透明鉱物を少し含む	
109	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	灰 黄 (Hue2.5Y 6/2) 黒 (Hue5Y 2/1)	灰 黄 (Hue2.5Y 6/2) 黒 (Hue5Y 2/1)	1mm以下の透明砂粒、0. 1mm以下の光沢鉱物を多 く含む	
110	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4) 黒 褐 (Hue7.5YR3/1)	黒 褐 (Hue10YR 3/1)	1mmの透明砂粒を多く含 む	
111	深鉢 口縁部	貝殻条痕 ナ	貝殻条痕 ナ	斜位貝殻腹縁文を横方 向に施文	なし	黄 灰 (Hue2.5Y 4/1)	オリーブ黒 (Hue5Y 3/1) 明 赤 褐 (Hue5YR 5/6)	1mmの赤褐色砂粒を少 し含む	

第7表 大谷遺跡表採土器観察表(7)

遺物 番号	器種 部位	調整		文様		色調		胎土	備考
		外面	内面	外面	内面	外面	内面		
112	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	縄文 横位沈線	なし	暗灰 (N 3/0)	暗灰 (N 3/0)	1mm前後の灰色砂粒を多く含む	
113	深鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	縦・横位沈線 縄文	縦位沈線 縄文	黒褐 (Hue10YR 3/1)	黒褐 (Hue10YR 3/1)	0.5~1mmの白色砂粒を多く含む	北久根山式に相当
114	深鉢 胴部	ミガキ	ミガキ	横位沈線(端部刺突) 縄文	なし	黒 (N 2/0) にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4)	灰 (Hue7.5Y 6/1) 黒 (N 2/0)	0.5~1mmの黄灰色砂粒を多く含む	北久根山式に相当
115	深鉢 胴部	ミガキ	ミガキ	横位沈線(端部刺突) 縄文	なし	黒 (N 2/0) 黄灰 (Hue2.5Y 6/1)	黒 (N 2/0)	0.5mmの黄灰色砂粒を多く含む	北久根山式に相当
116	浅鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	沈線 縄文	なし	明赤褐 (Hue2.5YR5/8) 黒褐 (Hue10YR 3/1)	明赤褐 (Hue5YR 5/6)	0.5~1mmの黄灰色砂粒を多く含む	西平式に相当
117	台付皿 口縁部	ナ ミガキ	ナ デ	口唇部に斜位貝殻腹縁 文を横方向に施文	斜位貝殻 腹縁文	にぶい赤褐 (Hue2.5YR4/4)	にぶい橙 (Hue7.5YR6/4)	0.5mmの黄灰色砂粒を多く含む	
118	台付皿 口縁部	ナ デ	ナ デ	なし	横位沈線 竹管円文	にぶい黄橙 (Hue10YR 6/4)	黄灰 (Hue2.5Y 5/1)	0.5~1.5mmの灰色、 白色砂粒を多く含む	
119	深鉢 口縁部	ナ デ	ナ デ	横位短沈線	横位短沈 線	橙 (Hue7.5YR7/6)	オリーブ黒 (Hue7.5Y 3/1) 灰 (Hue7.5Y 5/1)	0.2~0.3mmの白色 鉱物、0.5mmの灰色砂 粒を多く含む	曾畑式に 相当
120	深鉢 (浅鉢) 口縁部 ~胴部	ナ デ	貝殻条痕	楕円状沈線 三日月状沈線 横位貝殻腹縁文を横方 向に施文 フジツボ状突起	なし	明赤褐 (Hue2.5YR5/6) 橙 (Hue5YR 6/6)	黒褐 (Hue5YR 3/1)	0.5mmの白色砂粒を多 く含む 1.5mmの金色雲母を少 し含む	
121	深鉢 (浅鉢) 底部	ナ デ	貝殻条痕	なし	なし	にぶい赤褐 (Hue5YR 5/4) 明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	黒褐 (Hue5YR 3/1) にぶい褐 (Hue7.5YR6/3)	0.5mmの白色砂粒を多 く含む	
122	浅鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	横位沈線 逆丁字文 縄文 フジツボ状突起付把手	なし	黄灰 (Hue2.5Y 6/1) 暗灰 (N 3/0)	暗オリーブ灰 (N 4/0) (2.5GY 4/1)	1~1.5mmの白色砂粒 を多く含む 3mmの白色砂粒を少し含 む	鐘崎式に 相当
123	浅鉢 口縁部	ミガキ	ミガキ	横位沈線 縄文 フジツボ状突起付把手	なし	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4) 黄灰 (Hue2.5Y 5/1)	にぶい黄橙 (Hue10YR 7/4)	1.5~2mmの白色砂粒 を多く含む	鐘崎式に 相当



版 圖



大谷遺跡遠景

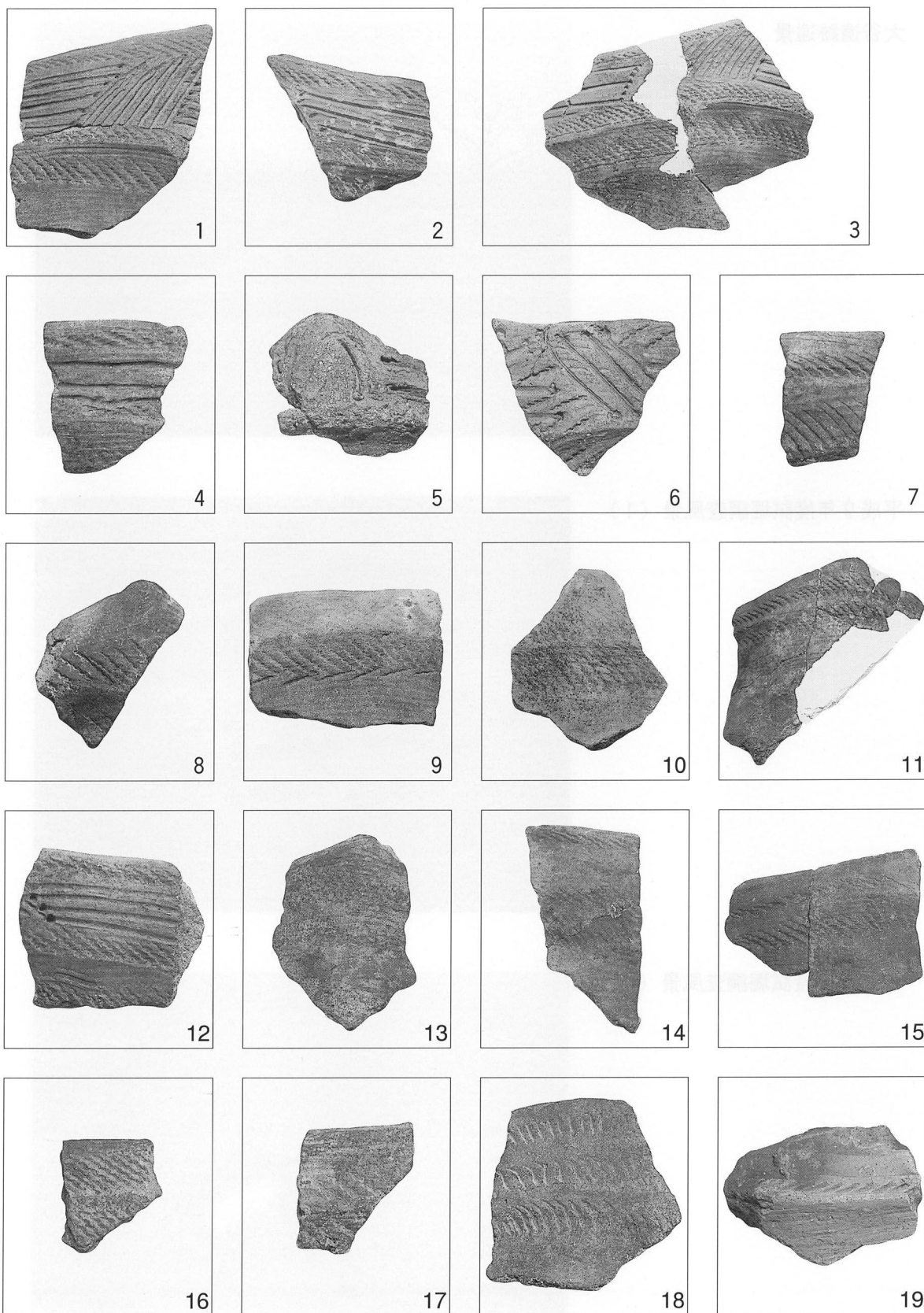


平成9年度試堀調査風景（1）



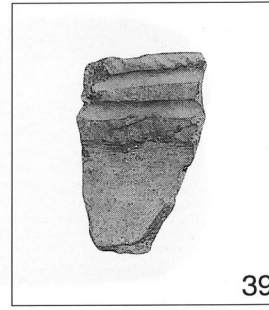
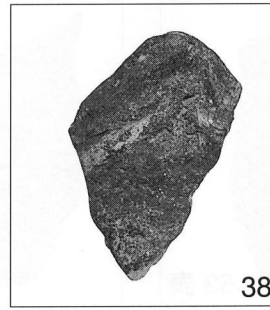
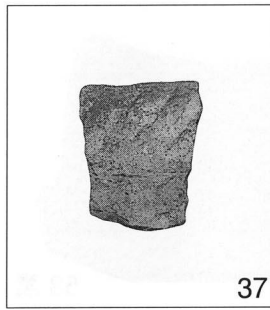
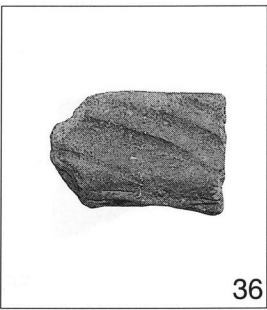
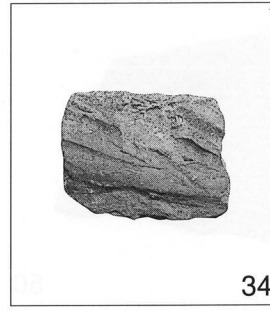
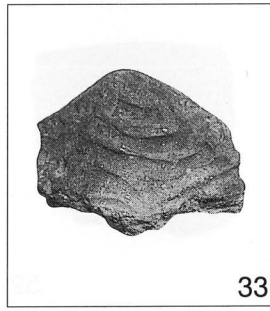
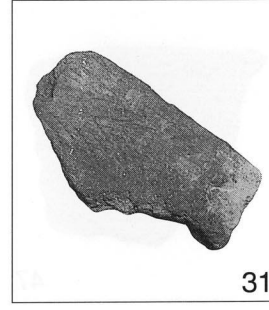
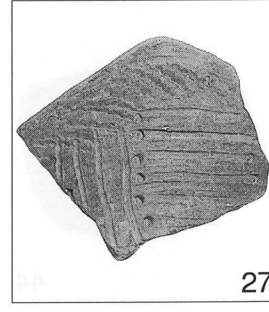
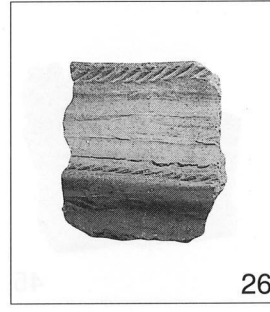
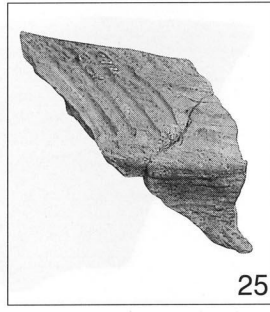
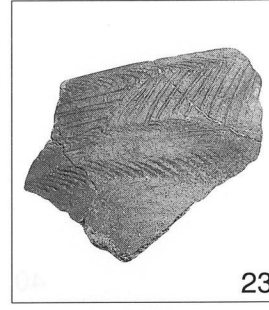
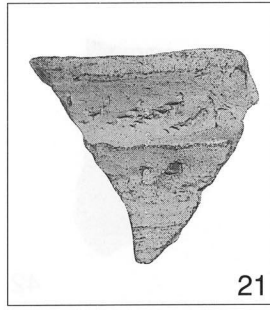
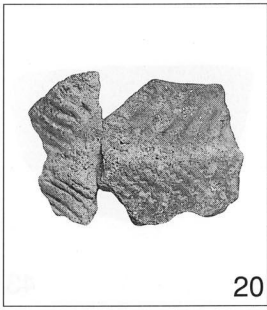
平成9年度試堀調査風景（2）



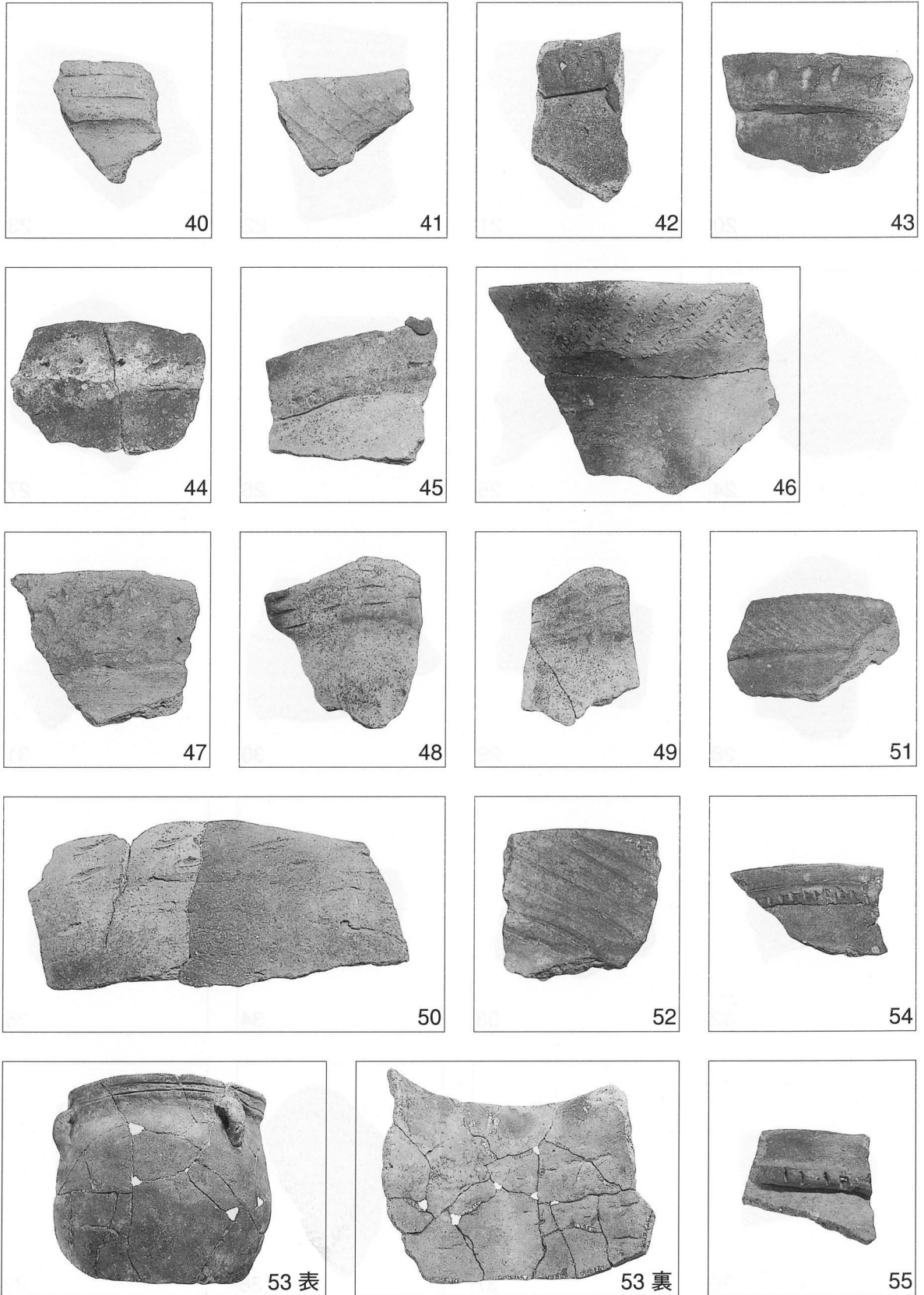


表採遺物（1）

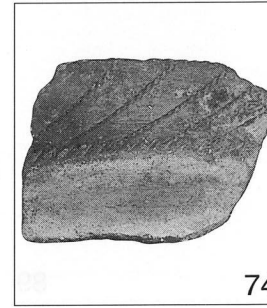
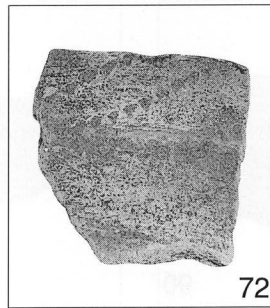
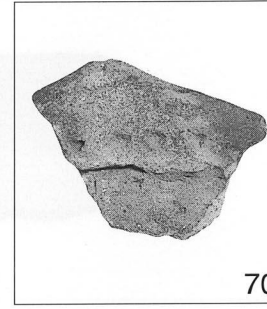
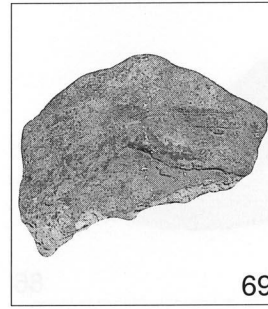
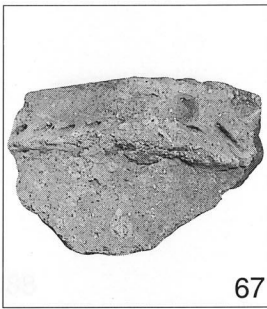
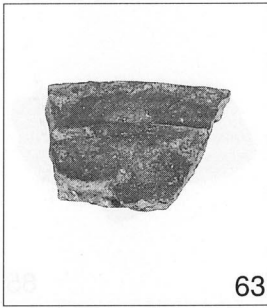
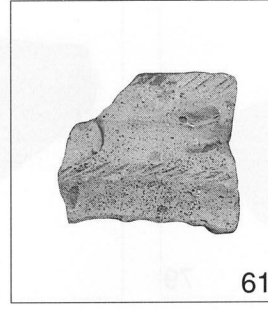
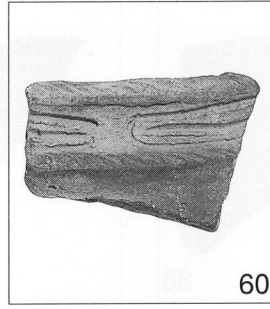
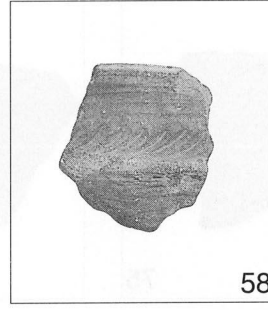
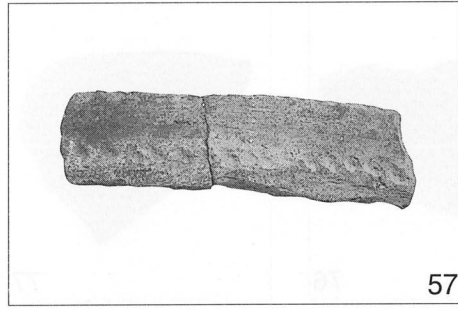


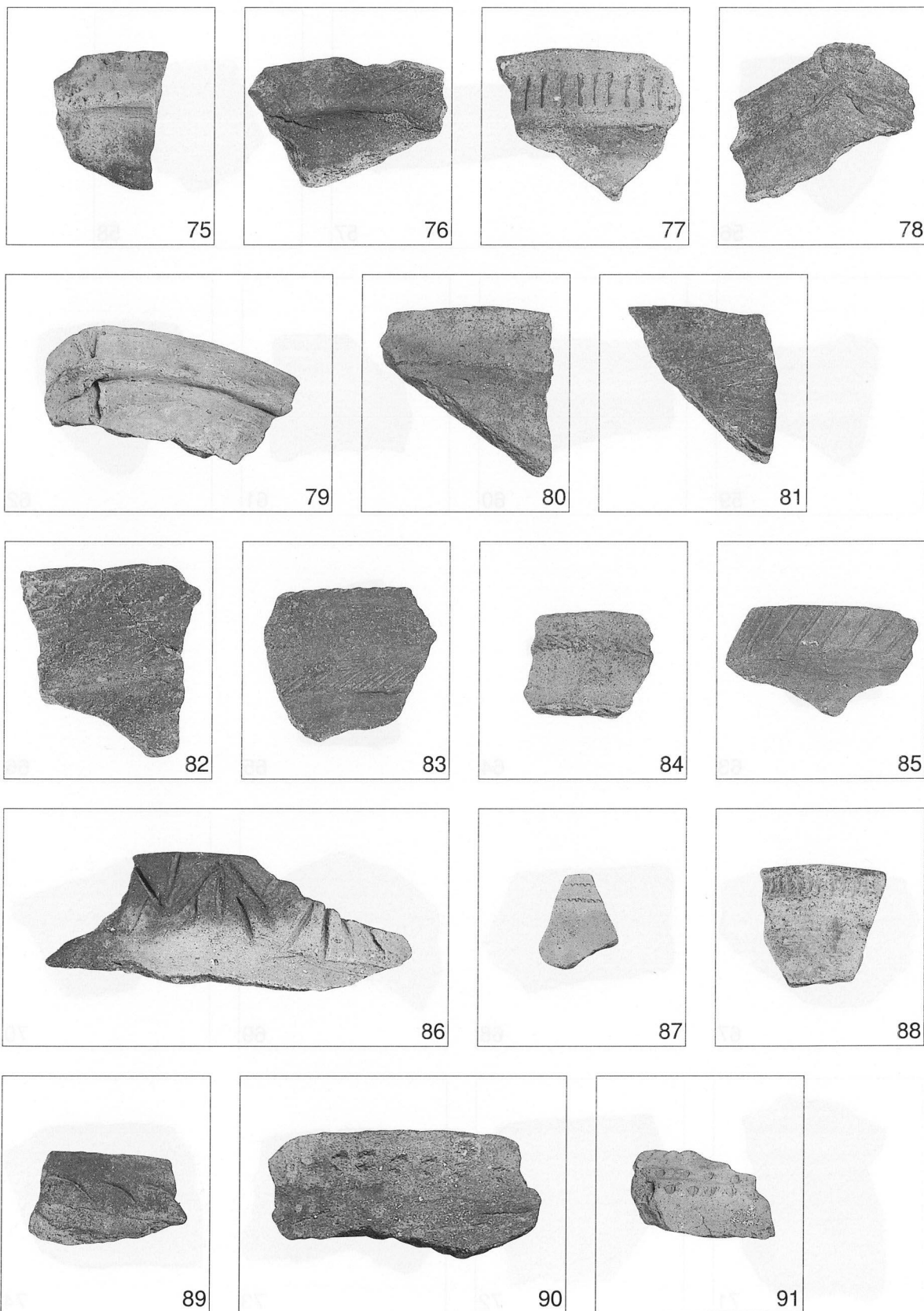


表採遺物（2）

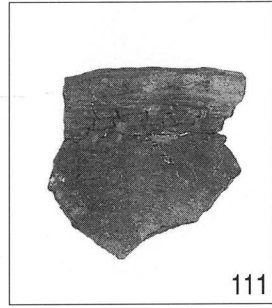
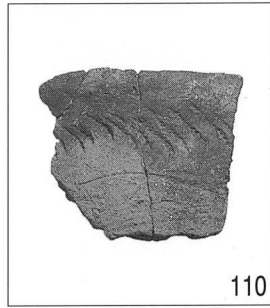
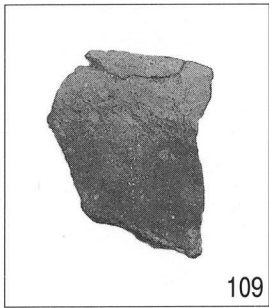
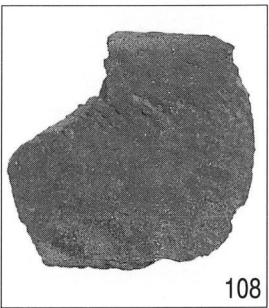
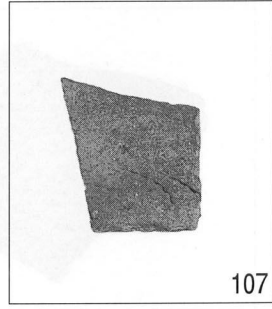
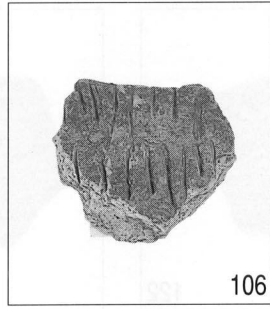
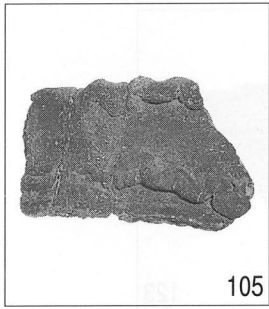
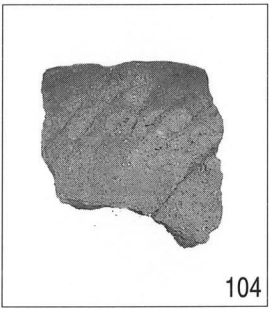
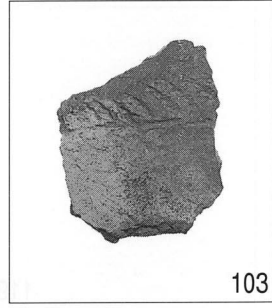
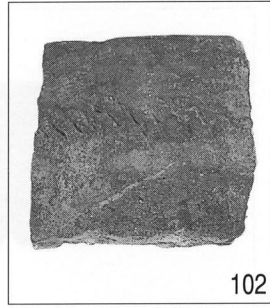
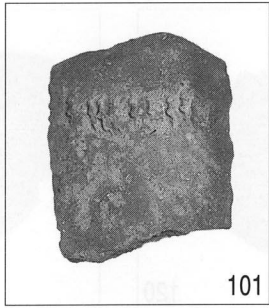
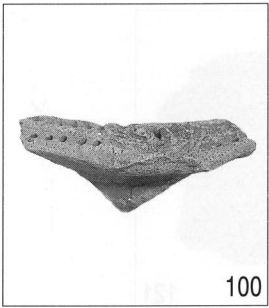
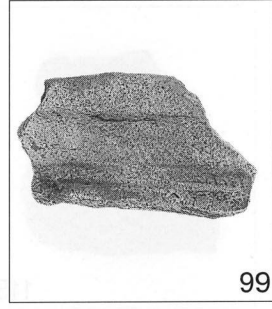
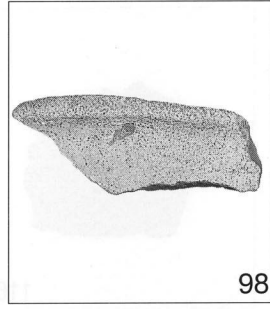
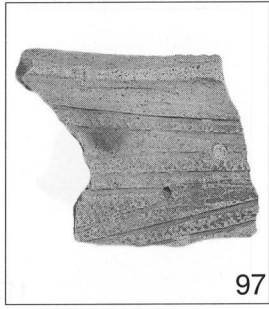
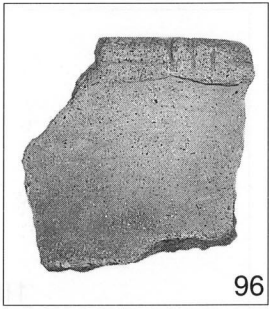
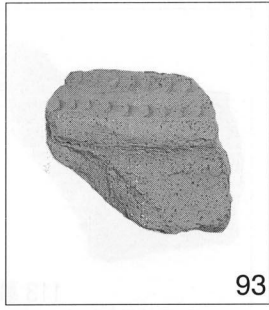
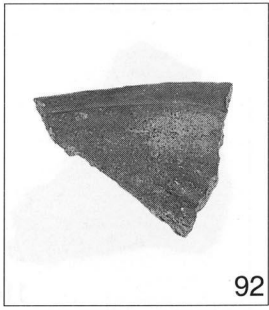


表採遺物 (3)

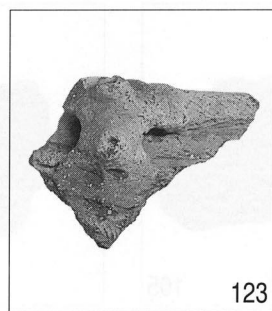
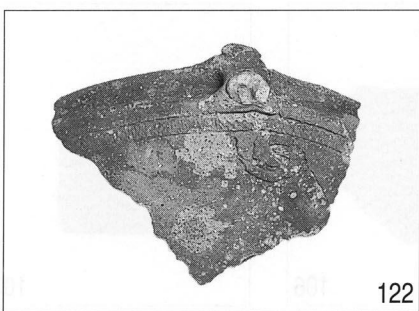
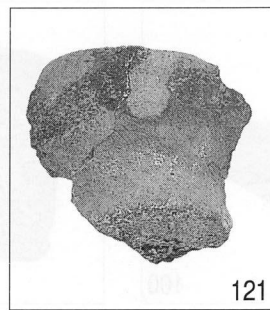
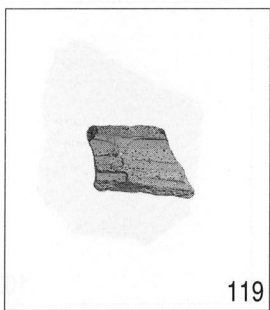
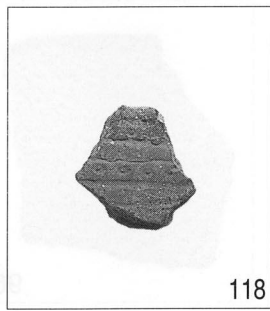
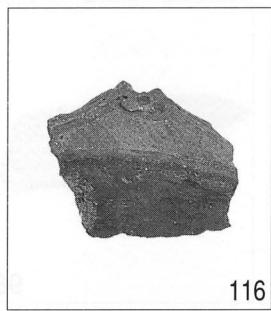
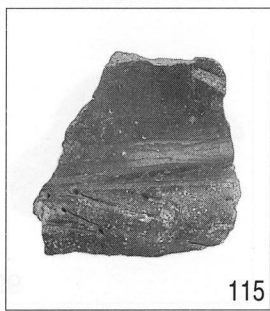
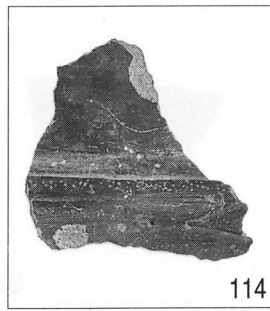
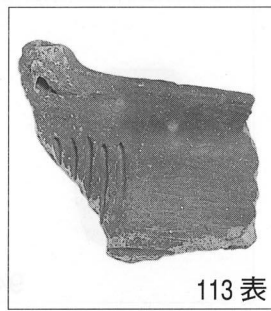
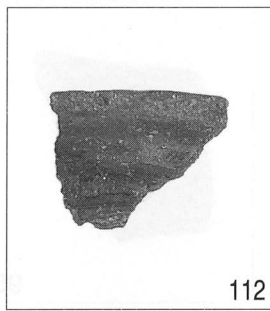




表採遺物 (5)



表採遺物 (6)



# 報 告 書 抄 録

フリガナ	タカハルチヨウマイゾウブンカザイハックツチヨウサホウコクシヨ					
書名	高原町埋蔵文化財発掘調査報告書					
副書名	日守地下式横穴墓群・大谷遺跡表採縄文土器資料					
巻次	/					
シリーズ名	高原町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第4集					
編集者名	大 學 康 宏					
発行機関	高原町教育委員会					
所在地	〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地					
発行年月日	1999. 3. 31					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
ヒモチカシ 日守地下式	タカハルチヨウオオアサ 高原町大字	31° 55' 37"	131° 02' 26"	19970214	200 m <sup>2</sup>	個人による 原野造成
オウケツホクケン 横穴墓群	ウシロカワウチアサヒモリ 後川内字日守 10-1	付 近	付 近	19970307		
種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
古 墳	古墳時代	地下式横穴墓 2基		蛇行剣 1点 剣 1点 刀子 1点 鉄鏃 6点 鉈 2点	・町内初、県内36例目の蛇行剣及び異形鉄鏃等の副葬品が確認された。	
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
オオタニイセキ 大谷遺跡	タカハルチヨウオオアサ 高原町大字	31° 54' 54"	130° 58' 19"	/	/	/
	ヒロワラアサ 広原字大谷	付 近	付 近			
種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
散 布 地	縄文時代 ) 平安時代	な し		縄文土器	・縄文時代後期を中心とした様々な土器型式が確認された。	

高原町文化財調査報告書 第4集

高原町埋蔵文化財発掘調査報告書

ひ もり 地下式横穴墓群

おお たに 大谷遺跡表採縄文土器資料

1999年3月

編集・発行

宮崎県高原町教育委員会

〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899

TEL 0984-42-2111

印刷

(株)長崎印刷

西諸県郡高原町大字後川内17-2